

ビザなし交流の体験談 — 対話集会 —

北方領土返還に向けた交流事業、いわゆるビザなし交流事業で訪れた方の択捉島での体験談です。対話集会ではお互いの歴史認識についても議論が交わされました。

ビザなし交流の一番の柱である「対話集会」が紗那中学校講堂や歴史資料館で行われました。テーマは「教育問題と家庭教育」でした。対応してくれたシュルプ教諭の教育概要の説明や卒業生の話など紗那中学校の教育について知ることができました。

教員人事について、お互いに意見交換や質疑応答が行われました。

紗那中学校の校長先生からは2つの大きな課題が提示されました。一つは、急激な教育改革や変化により従来の教育の良い面と、成果があった点が軽視され、顧みられなくなっている傾向が出てきているということに危機感を持っていること、もう一つは青少年の喫煙対策に苦慮していることが述べられました。

こうした点に関して、日本の団員の中から各地の教育改革への取り組みや中学校、高校の喫煙に関する指導や規

範意識の醸成、家庭・地域との連携や協力について意見や方策が出されました。

歴史教育や対話集会の意義についての質問が出たところで、歴史資料館に場所を変えて話し合いが継続されました。

シュルプ先生が択捉島でアイヌ人の生活から始まる歴史を熱心に話されました。

しかし、昭和20（1945）年8月に「帰属が変わった」という説明に対して、その後の対話集会で話題が集中しました。私は、「国家の仕組みや形態が変わることもあり公式見解としてい歴史認識も変化することがあるのではないのでしょうか？」と質問しました。真理・正義や法、秩序に基づき北方領土解決に向けて、政府・民間とも考えていかなければならないことをこの対話集会で痛感しました。



会場となった紗那しやな中学校(択捉島)



対話集会のようす